

自転車を取り巻く利用環境観察 連載 ③

「信号を無視する理由」

自転車安全利用研究会 谷田貝一男

信号機の指示に従うということは、道路を通行するすべての人に当てはまる、最も基本となるルールです。しかし、現実には信号機の指示に従わない・すなわち信号を無視して赤信号でも停止し

ないために事故が発生しています。事故には至らないまでも、信号を無視する自転車を観察することもあります。なぜ、信号を無視するのでしょうか。

自転車通行が少ないので信号無視し横断

最も多いのは、一度停止して「左右の道路を見ると自動車が行っていないので、信号を無視して交差点を横断しても安全」と思い、赤信号でも走り出すので



写真1 右方向を見て自動車の通行を確認
通行がないと信号を無視

す（写真1）。次に多いのは、日常通行する道路で「通行量が少ないことを知っているの



写真2 通行量が少ないことを知っている
信号無視でも安全という考え

で、信号を無視しても安全」と思っ、停止することもなく交差点を横断するのです（写真2）。

交差点を渡る意識がないため、信号の意識に結びつかず

さらに「他の自転車が信号を無視しているから、自分も無視しても安全」、「急いでいる」という理由や、周囲確認をしつかり行わなかったために「信号機が赤信号であったことに気が付かなかつた」という理由もあります。



写真3 左折時は衝突の危険がない
信号無視でも安全という考え

交差点を左折・右折するとき、さらには、多くの自転車が信号を無視する状況が観察されます（写真3）。

「信号を無視して進行しても安全」「車両との衝突の危険性がないから信号を無視しても安全」という理由もありますが、交差点を通行するという意識がないことが「信号順守」という意識に結びつかないのです。